

**弥陀仏本願念佛
信楽受持甚以難**

**邪見憍慢惡衆生
離中之難無過斯**

（ノ）半月ほど、市議会議員選・衆議院選が連続しており、とてもにぎやかでした。いろいろな情報が飛び交い、街頭演説も騒がしかったですが、それ以上にTV・インターネット・SNSなど、耳から大量の情報が押し寄せ、近年災害で苦しむ方々の多い中では不適切な表現かもしれません、情報の嵐、情報の洪水、情報の津波に飲み込まれほん弄されるような感じでした。この莫大な情報を動かすエネルギーのほとんどは電力に依存しています。エネルギー枯渇の危機感がじわじわと迫ってきており、代替えエネルギー

一開発に躍起になるよりも、電力エネルギーに依存しないで生きる人間の自立的な生活力の育成に目を向け、誰もが平等で平和なお净土に向かう方向に舵を切らなければならないのではないか。

阿弥陀様は私たちすべての命が、喜んで我が國（阿弥陀様の国＝お浄土）に生まれたいと欲することを本当に願われました。そしてそれはお念佛一つを称えて人生を歩むことで可能となつていくことを親鸞聖人は示されました。ところが近年ますますこの阿弥陀様のご本願を信じ喜びながら念佛に生きることが困難になっています。

情報は多ければ多いほど人は見識を高め、正しい判断、正しい道の歩みを助けてくれるものだと一般的には信じられています。そし

て、人類の科学技術の進歩は、情報量の拡大と伝達スピードの高速化によって、地球の裏側の出来事も瞬時に隣の街の出来事のように知ることを可能としています。しかし、多くの情報を知れば知るほど、何が本当に何がウソなのか、どれが正しくてどれがダマシなのか見えなくなり、情報に取り残されていることへの不安、だまされていることへの不信、ソーンしたことへの不満が募つていきます。その結果、情報戦は架空の世界での出来事で終わるつかり合い、国と国がつるし合う戦争の火種となつていています。情報は“邪（よこしま）”なもの。自らの持つ情報がよこしまな見識であることを自覚できないと、人はおこり高ぶつて人を見下し、自らの計算で物事を進め、道を外れた悪の存在となります。このおこり高ぶる心の中には、他に対する疑いと憎しみ、不満と不安、怒りと敵意があります。エネルギー枯渇の危機感がじわじわと難し、ということです。

今私たちの手のひらからスマホを手放すのは、難中之難無過斯（難の中の難、斯に過ぎたるは無し）と思います。しかし、今までに報恩講のシーズンとなり、この困難な時代に信楽の心を伝え、八〇〇年前に浄土真宗のみ教えを開示していただいた親鸞聖人へのご恩を、身を粉にしても報じなければならぬ時なのだと思います。

いろいろな政見放送が聞こえてくる中、私が演説するならば、一八歳未満スマホ禁止法”が成立させます！と言つてみたいと思います。きっと落選するでしょうけどね。（文責 住職）

ご報告

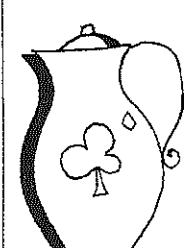
今年も晴天に恵まれて、無事に大谷本廟への納骨を終えました。四家族九名のご参加をいたしました。

お孫さんのがおばあちゃんと参加してくれました。お孫さんと一緒に親とともに行動する子供たちが多い中、祖父母と遠出をする子どもさんはあまりない

六 日 (土)	石田久美子宅	三回忌
七 日 (日)	長谷川 進宅	一周忌
一 一 日 (木)	坂本政司宅	墓遷仏式
一 三 日 (土)	湯口博文宅	一三回忌
二 十 日 (土)	順光寺 (滋賀)	二七回忌
二 一 日 (日)	勝林寺 報恩講	
西山保夫宅	一七回忌	
二 三 日 (火)	平野洋治宅	三回忌
二 四 日 (水)	佐田・栗尾	報恩講
二 五 日 (木)	栗尾	報恩講
二 六 日 (金)	みのりを聞く会	

大谷本廟で納骨式を行いました

十一月 勝林寺 予定



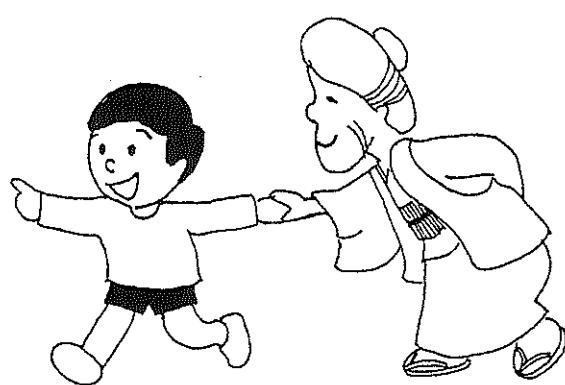
（文責 住職）

十一月二十一日（月）
午前十時より
お勤め
法話

山崎剛真 師
（導師 西宗寺）
（法話）

ただし、コロナ感染予防のため
・送迎バスはありません。
・お斎はありません。

町内のお寺様のお参りはありません。



（敬称略）

いまひとつめざめの宗教とは、それとはちがって、私たちの人生を深くかえりみることにより、私の心の暗闇に気がつき、またこの世のことわりに眼を見開いて生きることを教えます。それは自分の願望を神さまや仏さまにいのるのでもなく、また自分の心のもちかたをきりかえていくことでもあります。

ひとすじに教えを学び、それを身につけることによって、私とこの世の存在のことわざりに、深くめざめて生きてゆくことになります。仏さまは、「もともと」という「めざめ」をえた人をいい、「このような「めざめ」をうることをめざすものが仏教にほかなりません。私はかつてある婦人会の集まりで、こんなことを経験したことがあります。ひとりの若い婦人が、

「真宗のお説教では、よく魚を食べたり卵を食べたり」とは、殺生のつみをおかすことや、とても悪いことだといわれますが、いまの時代にそんなことをいつても通用しません。そんなことをいうから、若い人がお寺に寄り付かなくなってくるのです。もうそんな古臭い話はやめるべきです。」

といわれました。するとその意見に対して、もうひとりの婦人が、「いや、私たちが魚や卵を食べることのつみの重さを語られることは、とても大切なことだと思います。これからもまた、そのことについでしっかりと教えてください。」といわれました。すると、さつきの婦人が声を大きくして、

「あなたはそういうわれるが、それなら、あなたの家では魚も卵も食べないのでですか?」と、といつめました。その言葉に対し、この婦人はとても悲しそうな顔をしながら、

「いいえ、私の家庭でも、毎日魚や卵をいた

だいております。でも、そのことはとてもおろしく、悪いことだと思います」

そこをされました。それを聞いたまえの婦人は、

「魚や卵を食べながら、それがおそろしいつみをつくることであり、悪いことだと思うのはおかしい。たべているのなら、そんなことはよくよく思わないことです」

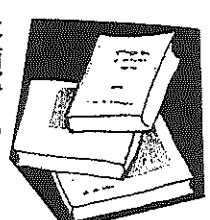
といわれました。それからひとしきり、二人の間に言葉のやりとりが続きましたが、私はこの二人の言葉を聞きながら、ひとりの婦人には、よく見えていること、氣づいていることが、もうひとりの婦人には、まったく見えない、ということを思つたことです。魚の生命や卵の生命の重さという世のことわりと、それをむさぼって生きる人間のつみの深さが、ひとりの婦人にはよくよく見えているのに、もうひとりの婦人には、それがいつこうに見えていないのです。

仏教、ことに親鸞聖人によって示された浄土真宗とは、このようにただの日常生活の中では見えてこないもの、気づかないことを、その教えを学ぶことをとおして、新しく眼を見ひらき、氣づいてゆくことを教えるものであります。それはまさしく、めざめの宗教と呼ばれるべきものであります。

親鸞聖人は、信心とはめざめの体験であると教えられています。浄土真宗で信じるのは、眼に見ることのできない仏さまや、まったくわからない死後のことを、たぶんそうだろうと思つたり、それについての話をあてたよりもこれまでました。すると、さつきの婦人が声

人間そのものの田さめを

呼びかけるものが如来の本願である 中西 智海



中西智海先生は、人間が生きる「願い」について二つの方向があることを示されています。一つは生存・生活を向上させたいという願いです。人は誰でもが、衣食住のすべてが整い、健康であり、地位や名譽が与えられることが、幸せの絶対的な条件であると信じながら生きています。しかし本当にそのことが「生きる」との田さめ」といえるのでしょうか。

もう一つは人間の衆生に開わる願いです。つまり「私は何が」「なぜ生きているのか」という問いであり、そのことを解決して生と死に惑う」とのない「安らかで本当に豊かな人生を歩みたい」という、人間としての根源的な願いのことなのです。田の前の欲望を満たすことだけに毎日をあくせくと働き続ける人間の姿を観見し、それは自らの罪業であると抱き悲しみ、私の苦惱の人生に無料の光との力を恵み与えて、安らかで真実なる世界(浄土)へ迎え入れようと誓われたのが、如來の本願でした。無智なるがゆえに自らの人生を暗闇へと暗転させ、他人を傷つけ、口さえも傷つきながら無明の闇を迷い続ける私。そのことを私に知らしめ、救いの灯を掲げるために成就されたのが、本願の名号(念佛)だったのです。

そこが迷いの世界であることを知らず、邪見と驕慢の苦海に浮き沈みする私に向かって「血のあり方に目覚め、如來の本願を信じ、浄土を目的としてその人生を歩め。我が名を称えよ」と、阿弥陀如来は一画無阿弥陀仏」という名号となつたこと、気づかなかつたことにだんだんと眼を見ひらいてゆく」とを言います。(次号に

「声の大きいところや小さいところがとても上手でした」
コロナ禍で実施の見送られることが多く、半年ぶりに行つた近くの小学校の読み聞かせボランティア。なんとか無事に読み終えて「ふーっ」。すると、担任の先生は「感想の言える人はありませんか」と子供たちに問いかけられました。真っ先に勢いよく手を挙げた女の子は、私のドキドキの読み聞かせを冒頭の言葉でほめてくれました。先生は、お話を感想を聞いてみたいくと思われたのだろうと思います。でも、女の子はお話を内容より私の読み方に心を奪われたのかもしれません。それは、読み聞かせをする者にとっては、あまりよくないこと

とされ



とすん

の小学校の読み聞かせボランティア。なんとか無事に読み終えて「ふーっ」。すると、担任の先生は「感想の言える人はありませんか」と子供たちに問いかけられました。真っ先に勢いよく手を挙げた女の子は、私のドキドキの読み聞かせを冒頭の言葉でほめてくれました。先生は、お話を感想を聞いてみたいくと思われたのだろうと思います。でも、女の子はお話を内容より私の読み方に心を奪われたのかもしれません。それは、読み聞かせをする者にとっては、あまりよくないこと